

# H26. 2月豪雪を踏まえた相双建設事務所の取組



福島県相双事務所管理課  
副主査 柳沼 毅

## 相双地方の冬季道路交通の安全確保に向けて

施工場所: 相双建設事務所管内

### 1. はじめに

平成26年2月中旬、発達した南岸低気圧は中・浜通りに記録的な大雪をもたらし、相双建設事務所管内においても、中通り方面への幹線である国道115号および主要地方道原町川俣線が数日間通行止めになるなど、交通障害が発生した。

相双建設事務所では、平成26年3月に「冬季道路交通円滑化連絡協議会」を設立し、この経験を踏まえた除雪業務改善に関係機関と連携し取り組んでいる。

### 2. 経緯

日付	時間	国道115号	原町・川俣線
2/8		平野部で20~30cm、峠部で40~50cmの積雪も大きな交通障害無し	
2/9		但し、路肩へ多量の雪が残る	
2/14	夕方	降雪始まる	
2/15	1:00	除雪作業開始	
	3:00		除雪作業開始
	明け方		降雪強まる
	9:15		通行止(スタック車両による除雪不能) 最大約70台立ち往生
	9:38	大雪警報発令(新地町除く相双管内)	
	11:30	通行止(スタック車両による除雪不能) 最大約50台立ち往生	
	17:12	大雪警報解除(新地町除く相双管内)	
	19:30	スタック車両移動完了	
2/16	0:20		スタック車両移動完了
	8:00	BH等7台による排雪開始 保原土木:ド-ザ-2台応援	BH等11台による排雪開始
	15:00	道路雪害対策地方本部設置	
2/17	14:00	ロータリー除雪車 現場着 除雪開始	
	17:00		ロータリー除雪車 現場着
	21:00	ロータリー除雪車相双分作業完了	
2/18	7:00		ロータリー除雪車作業開始
		ロータリー除雪車はR115保原土木管内へ投入	
	12:00	通行止め解除	
2/19	14:00		ロータリー除雪車相双分作業完了
	17:00	通行止め解除	



2/15原町川俣線 スタック車両  
チェーン無し



2/15原町川俣線  
スタック車両による渋滞

### 3. 今年度の取組内容

#### 問題点

- 除雪機械の能力不足と排雪の困難
  - ・ 除雪能力を超えた降雪量
  - ・ 前週の雪が路肩に残り、幅員確保困難

- 道路管理者間の連携不足
  - ・ 各管理者が個別に除雪
  - ・ 情報共有不足  
(優先確保路線、排雪場所)

- 情報の混乱、除雪への協力意識欠如
  - ・ 情報収集の困難(特に峠部)
  - ・ 苦情、スタック大型車両のチェーン未装着

#### 取組

- 除雪機械の増強
  - ・ 小型ロータリー除雪車、除雪グレーダー
  - ・ 小型散布機(0.3m<sup>3</sup>)
  - ・ 民有ロータリー除雪車
- 施設改良(排雪)
  - ・ ガードレールからガードケーブルへの変更

#### 取組

- 冬季道路交通円滑化連絡協議会の設立
  - ・ 各道路管理者間の情報共有、連携強化
  - ・ 優先確保路線、豪雪時排雪箇所の決定

#### 取組

- 情報収集および除雪協力意識の改善
  - ・ ライブカメラ、交通情報のHPリンク集作成
  - ・ 飯館村、村民向けライブカメラの活用
  - ・ ライブカメラ増設、積雪深計の新設
  - ・ 簡易積雪深標尺の設置
  - ・ 除雪に対する啓蒙活動  
(広報紙、運転者向け広報を道の駅示)



民有ロータリー除雪車



県有小型ロータリー除雪車



冬季道路交通円滑化連絡協議会



簡易積雪深標尺  
(原町川俣線 八木沢峠)



飯館村民向け ライブカメラ  
(タブレット借用)

### 4. 今後の課題と対応

- 課題: 豪雪時、除雪効率のための通行止め実施判断基準の設定  
(測定箇所や降雪の強弱等により状況は変化するため、一概に積雪〇〇cmでは決定出来ない)  
対応案: さらなる情報収集強化および過去の通行止め事例の分析により基準設定
- 課題: 民有除雪機械の維持および人材育成  
(民有除雪機械の老朽化が進み維持が厳しくなっている。また除雪従事者も高齢化が進んでいるなか、次世代人材の育成も急務)  
対応案: リース機械(県がリース契約→民間貸与)への変更と除雪表彰制度のバージョンアップや総合評価入札時の付与点数増

これからも改善取組のPDCAを実施し、冬季間も安全・安心な道路交通を利用者に提供出来るように引き続き取り組んでいく。